



横浜陶芸友の会だより

第 160 号
平成 26 年
11 月 15 日発行

「第 36 回 作品展」のお知らせ

事業部

今年度の作品展の日程をお知らせいたします。

会場は、昨年と同様「かなつくホール」です。幸運なことに、2 年続けて開催することになりました。前年度の経験を踏まえ、よりよい作品展にしたいと考えています。一人でも多くの方々に参加していただけますようお願いいたします。

申し込みと作品展の詳細は、**同封のお知らせをご参照下さい。**

出展料は、友の会への賛助会費となっております。区画は「作品を並べてみてゆとりのある」広さを申し込んでください。

〔会期〕 平成 27 年 1 月 13 日(火)

～ 1 月 18 日(日)

〔会場〕 かなつくホール 3 階 ギャラリー A

(神奈川県民文化センター内)

〔時間〕 10 時～18 時

〔特設コーナー〕 そば猪口 *出展料は無料

〔住所〕 横浜市神奈川区東神奈川 1 の 10 の 1

〔交通〕 京浜東北線 「東神奈川」 徒歩 1 分

京浜急行本線 「仲木戸」 徒歩 1 分

8 月役員会報告 ↓ (11 月役員会報告は 4 頁)

8 月 23 日(土)会長・副会長各役員 14 名で話会しました。

各部報告

◎作品展の会場が決定

◎窯場見学会を今年度は行わない

◎焼成会は木の葉天目に挑戦

◎友の会だよりは年 3 回の発行

◎アンケート結果

回答者が予想より少なく、今後のあり方について意見交換がされた。

友の会を運営継続させていくには、少し時間をかけて検討していくことがよいのではないのでしょうか。

総務 池見

「木の葉天目」にチャレンジ

秋期焼成会、盛会裏に終わる！

専修部

恒例となった秋の焼成会。今年の目標は、木の葉天目。

9 月 7 日の作品受付には、15 名、118 点の素焼き作品(平ワン、ソバチョコ、皿、深鉢など)が持ち込まれました。

木の葉天目は初めてという方が多く、さっそく下村、本橋両氏提供の黒天目釉を掛け、器の大きさに合った棕の葉を裏側を上に入れて、素焼きの押さえを載せてこの日の作業が終わりました。(後日 750 度で素焼き)

9 月 21 日の釉葉掛けには、9 名が参加、34 点の素焼き作品が持ち込まれました。各自の好みに合わせて、織部、黄瀬戸、白萩などを施釉、また呉須やベンガラなどで絵付けする方もいました。



9月28日、待望の作品引渡しには15名が参加、自分のものや人の出来具合にしばし会話が盛り上がりました。今回は「これぞ木の葉天目!」という作品は出現しませんでした。自分の作品の中に、薄ら、べったり、時には一部分など矯めつ眇めつ葉の姿を求めて「ほら、傾けると見えるわ」「どれどれ何処に」、揚句は、押さえの素焼きの方に葉の形がはっきり写っているものなど話題は尽きません。この後、出来上がった作品に、持ち寄った料理を盛り付け、アルコールで一段と盛り上がりました。

今回の焼成では、素焼き温度、釉薬の濃度、椀の葉の状態など更に調査検討すべき点も見つかり、次回も再挑戦したいという声がたくさんありました。みなさんお疲れさまでした。

参加者数3日間 延39名
 作品数 152点
 粘土量 32・5kg

この他、窯の出入れ等5日間に延16名の専修部員が出ました。

秋期焼成会に参加された会員さんに感想を寄稿していただきました。

☆専修部の木の葉天目焼成に参加しました。結果的には1く2割くらいの確率で木の葉がみられました。中にはきれいに転写されたものもありましたが、なかなか難しいというのが実感です。椀の葉の綺麗な灰を取るのが難

関でそれが出来ても、焼成後に転写されないものもできてしまいます。

今回の経験を生かし、来年さらに確立の高いものに

すべく、この秋の状態のよい椀の葉を今から確保したいと思えます。その他に専修部で色々定着剤(弁柄・マンガン・ケイ酸ソーダ)等実験された説明もあり、興味深い焼成会になったとおもいます。 井上 明



☆焼成会には二つの楽しみがあります。一つは釉薬(今回は木の葉天目)等、作陶について丁寧に教えて貰えること、そしてもう一つは作品受け取り日に、各自一品持ち寄り、完成した器に盛り、皆で頂きながらいろいろなお話に花が咲く楽しいひと時が恒例になっていることです。専修部の方々、毎年ありがとうございます。

池見 千枝子

☆秋の焼成会に「木の葉天目」とあり、一度やってみたかったので参加させてもらった。私は本牧の陶芸センター貸室で細々と作陶を続けていますが、ちょうど素焼きを終えた小皿があつたので、それを持って焼成会に参加。

釉掛けをし、椀の葉をのせ、素焼きのおもしをして・・・

引渡し当日、出来上がりはいかばかりかと、おもしろの素焼きの皿を持ち上げると・・・釉は皿の底に流れ落ち、・・・木の葉の型はなし・・・

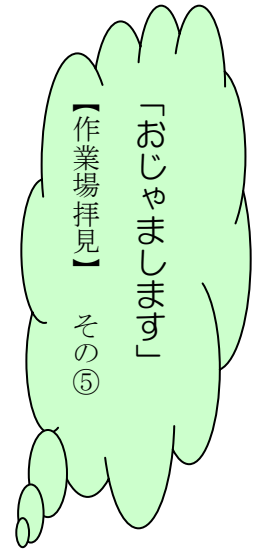
他の会員の作品も様々、発する声もこれ又悲喜交々 賑やか

その後のご馳走持ち寄りの懇親会、みんなの陶芸談義に加わり、話しに花が咲く楽しいひと時・・・ ”木の葉天目”

又次の機会に再挑戦するか・・・ 専修部の皆さんに感謝感謝

内田 昌男





焼成窯を持ち、日夜作陶に勤しんでいる会員の方をお訪ねし、その作業場や作品作りへの思いなどを、皆様にご紹介していく第五回目は、「陶芸友の会」の創設からの歴史を語れ、長い間「友の会」を支えてこられたホームペー ジと事業部を担当している太田公治さんです。

陶房「貉喜庵」にて



【太田公治さんとの談話】

① 陶芸をはじめるときっかけは？

・ 三十代の趣味は鉄砲、四十一歳で福島に転勤してゴルフ、横浜に戻った時、奥様が本牧の「市民陶芸教室」を見つけてきて始めたのがきっかけ。初めてのロクロが案外簡単で鶴首まで進んだ。教室を卒業し、自宅の倉庫を自分で改造し本格的に陶芸に取り組みだした。現在の場所は二十年程前に

空き家を改修しギャラリーと陶房にした。
② 長く続けられたのは？

・ 教室を卒業してすぐ「友の会」の事業部に入ることになり、そこで小林（元事業部長）君や高村（元会長）さん達と月一度は酒を飲み、陶芸談義に花を咲かせた。それが一番かな？

③ 作陶はいつおこなっていますか？

・ 十四年前定年退職した年、腰痛で一年間鍼に通った。それ以来ちよつと何かすると痛むので、作陶ができなくてここ二年「作品展」には出していない。

友の会の仲間と、千葉の「貸し穴窯」で何度か焚いたこともある。

作業場に置いた電気窯とガス窯



最近の趣味は「食い歩き」で、知人の紹介で京都の料亭が主催する月一回の教室に一年間通ったりした。陶芸は自分で作らなくなり、この陶房は第一と第三土曜日にやりたい人に開放している。

今、腰の状態は最高に悪く一週間に一度鍼に通い治療中。

ギャラリー「酔公」



④ その他

・ 元気な時は、大船の「陶ノ里」の教室に通ったこともあるが、陶芸に対する情熱家で毒舌の批評家だった小林君が亡くなったから「やる気」が出なくなった。
作品も作れなくなり、引退かな？そのま
ま会員は続けますが。

○ 太田さんの陶房は、京急鶴見と花月園前との中間にあり、元床屋を改修したギャラリーには、自作や作家物の作品が展示され、貸出スペースもあります。そこから少し奥まった所に作業場があり作品展の準備や事業部会にも利用させていただいています。

拠点のない「友の会」にとって拠点として利用させていただける大事な陶房だと思いま
す。

体調が悪く、ちよつと弱気な発言が多かつたようですが、いつまでもお元気で活動して
いただきたいと思います。

（文責）鍋島 弘義

陶陶さん

そろそろ
作品展の
準備 ですね

第 82 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 160 号

(平成 26 年 11 月 15 日発行)

「友の会 会則の改正・改訂」等の調 整・臨時総会を延期いたします。

先般、会員に向け実施しました「友の会 会則の改正、改訂」等についてのアンケートは回答が 23 名 (30.7%) のみの回収でしたので、再度アンケート調査を行います。多数 (2/3 以上) の回答をお願いいたします。同封いたしましたアンケート票にご希望、ご意見を記載の上

1 月 18 日 (日) 迄に回収いたします。詳細は同封いたしましたアンケート票に記載してありますので宜しくお願いいたします。

会長 高橋 光男

11 月役員会報告

木々が色づき始め、芸術を楽しむ頃となりました。

11 月 8 日会長副会長各役員 16 名の出席で話し合いました。

- 作品展について
- 焼成会の報告
- 各部の報告
- アンケート調査を再度行う

作品展のポスター案内ハガキの配布先を分担する
☆来年 27 年は友の会行事発足 40 年、作品展は 36 回目となります。何か企画を検討しましょうとかと提案がされました。

総務 池見

編集後記

広報に入って今回で二回目の「友の会だより」の発行。細かい地道な作業がこの「友の会だより」を支えているのをひしひしと感じています。そして会員の皆様が共に参加し、少しでも陶芸の作品作りに役立てられるような紙面にしたいと思っていますので、これからもよろしくお願ひします。

今回は年明け早々の作品展のご案内や専修部の秋期焼成会の報告など、この会を支えるメインの活動記事です。

作品展には多くの会員の皆様が出展されますことを期待しています。私も遅ればせながら作品展用にと、作品作りをはじめました。

今年には久しぶりに釉薬ものに挑戦。釉掛けひとつをとってもその難しさを感じています。どんな作品ができることやら? 大日方